

# 男女共同参画の 視点からの復興 ～参考事例集～

**第 25 版** (追加分のみ)

令和 4 年 1 月 14 日

復興庁男女共同参画班

## 一 男女共同参画の視点からの復興 参考事例集とは 一

「東日本大震災からの復興の基本方針」の基本的な考え方では、「復興のあらゆる場・組織に女性の参画を促進する」「子ども・障害者等あらゆる人々が住みやすい共生社会を実現する」としており、多様な生き方を尊重し、全ての人があるあらゆる場面で活躍できる男女共同参画社会の実現に向け、復興に当たっても、男女共同参画の視点が必要です。

復興庁男女共同参画班では、自治体や各地で活躍する方々の参考となるよう、まちづくり、仕事づくり、健康づくりなどの分野に関し、女性が活躍している事例や被災地の女性を支援している事例等を収集しています。

今後、引き続き事例を収集し、公表していく予定です。



### インデックスの凡例



各ページ右上のインデックスの凡例は、以下のとおりです。

各事例で該当する部分は色を濃くして表示しています。

#### まちづくり

行政と協働し、まちづくり計画の策定・提言、これからどのようなまちに復興していくか検討する取組

#### 仕事づくり

就業支援、起業支援、産業の創出や地域経済の活性化に関する取組

#### 健康づくり

心身の健康維持・増進のための取組

#### 居場所づくり

孤立を防止するための場づくりや、ネットワークづくり、地域の人が集まるスペースづくりなど、様々な人と交流や情報交換を行うための場を提供するための取組

#### 人材育成

地域住民やNPO、自治体職員など、復興を担う人材を育成するための取組

#### 情報発信

復興に向けた被災地の現状を伝える取組や、東日本大震災の記録を残すための取組



\* 上記以外について重要なワードがあるものは、その他の欄を活用し、重要なワードを上書きしています。

## 目 次

分野	事例	実施主体など
情報発信	<sup>1</sup> 聴覚障害者が安心して地域で暮せるための環境づくり	宮城県聴覚障害者情報センター

※事例が複数の分野にわたる場合は代表的なものに分類しています。

★印の事例は、既に掲載済みの事例ですが、その後の取組状況を追記しています。

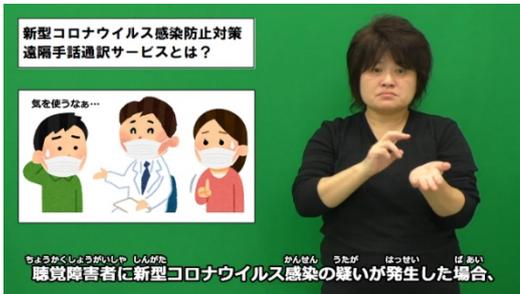
118

## 聴覚障害者が安心して 地域で暮せるための環境づくり



### 宮城県聴覚障害者情報センター（みみサポみやぎ）

令和4年1月現在



みみサポみやぎのHPでは毎週、生活に役立つ情報等を字幕付きの手話動画で配信

#### 取組主体

宮城県聴覚障害者情報センター、自治体

#### 対象者・受益者

聴覚障害者とその家族、地域住民、行政職員

#### 実施時期

平成27年1月～

#### 活動地域

宮城県全域

#### キーワード

聴覚障害者、情報発信、つながりづくり

#### 取組ポイント

県事業として聴覚障害に関連した幅広いサービス（情報発信、聴覚障害者と地域とのつながりづくり、聴覚障害者とその家族に対する専門的な相談、手話通訳者養成等）を提供し、聴覚障害者が地域の中で安心して暮らしていくための総合的な支援を行っている。

### 取組の背景・経緯

- 東日本大震災後の2012年1月、県の事業として被災した聴覚障害者を支援する「みやぎ被災聴覚障害者情報支援センター」が設立された。同センターでは、長い避難生活の中で移り変わる生活環境の変化（避難所→仮設住宅→災害公営住宅等）に寄り添い、聴覚障害者やその家族に対する生活再建に向けた生活相談や情報発信等の支援を行った。
- 同センターが行った被災地における聴覚障害者の被害実態調査による分析結果や支援活動の中から、**情報提供やコミュニケーション強化に特化した施設の必要性**が見えてきた。そこで、聴覚障害者自らが必要な情報を取得できるように、地域住民が聴覚障害者の実態を理解し、聴覚障害者が地域の中で安心して暮らせるような地域環境づくりに取り組んだ。
- その「みやぎ被災聴覚障害者情報支援センター」を引き継ぎ、2015年1月、聴覚障害者情報提供施設の機能を持った「宮城県聴覚障害者情報センター（みみサポみやぎ）」が設立された。

### 取組の概要

- 公式HP上で、聴覚障害者に関連した情報を発信。たとえば、**聴覚障害者向けに生活に役立つ情報を手話動画で「目に見える情報」として発信**したり、手話通訳や要約筆記通訳が付くイベントや講習会等の情報を随時紹介している。
- 県内市町村で手話通訳や要約筆記付きの『みみサポサロン』を開催。聴覚障害者やその家族等が地域の中で安心して暮らすために、巡回相談会、福祉制度や防災に関する情報提供、情報交換の場等その地域に合わせた内容で企画し、開催している。
- **地域の住民に聴覚障害者について理解を深めてもらうために『出前講座』**を実施。聴覚障害に関する基礎知識やコミュニケーションに関することについて紹介したり、意見交換等をしている。
- 県の2020年度委託事業として、緊急時や災害時等において聴覚障害者が周囲に協力を求める際に利用できるツール「緊急・災害用お願いカード」を作成した。2021年度委託事業では、**聞こえる人向けの「災害時支援パンフレット」**を作成、もしもの時に広く県民に知ってほしい聴覚障害者の支援情報をまとめた。

## 工夫した点・特色

- 東日本大震災の教訓から、聴覚障害による情報不足が原因で命を落としたり支援物資等が受け取れないことがないよう、「目に見える情報伝達」、「平時からの仲間や地域とのつながりづくり」、「地域住民が聴覚障害者の状況を理解し、支援方法を知る」等の課題を明確にし、活動している。
- 聴覚障害者は外見では判断しづらく、その存在が周囲に知られていないことが多い。また、聴覚障害者と一口に言っても、ろう者と難聴者の違いや、生まれつきの障害のある方と人生の途中から聴覚障害になった人の違い等、それぞれのコミュニケーションの方法に違いがあり、そのことが理解されていないことで周囲から誤解されたり、孤立してしまうことがある。そこで、**聴覚障害者と地域住民が顔を合わせ、互いに理解し、つながりができるよう**、コミュニティ形成の一助としてセンター職員が地域に出向き、「出前講座」を開催している。
- 講座の講師や進行を聴覚障害当事者が行うことで、実態を知ってもらうようにした。
- 民生委員や地域防災リーダー等、希望者のニーズに合わせた内容で講座を実施したり、地域の児童向けにセンター見学等を受け入れている。
- 「緊急・災害用お願いカード」を作成するに当たり、一般社団法人宮城県聴覚障害者協会や特定非営利活動法人みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会の協力を得て、作成検討委員会を立ち上げた。用語のニュアンスの違いを踏まえながら、**緊急時に、ろう者も難聴者もみんなが使えるツール**を目指した。
- センターの業務は四六時中という訳にはいかない。緊急時には聴覚障害者自身が情報を取得したり、仲間とつながったりして**自ら対応できるような働きかけ**を心掛けている。



## 取組の効果

- センターやセンター主催の施策の利用者は、2019年度までは約330名/月。2020年度はコロナ禍で260名程度と減少したものの、「集まる」「顔を合わせる」ニーズは高く、地域で開催する「みみサポサロン」は市町村の理解・協力を得て、感染防止対策を講じながら継続できた。
- 「みみサポサロン」では、聴覚障害者、地域住民、行政職員が地域に関する課題や意見を交換することで、**お互いに気づきを得て、つながるきっかけ**ができた。
- ホームページの利用やサロン等の体験を通して、災害情報等の**必要な情報を聴覚障害者自身が自分で取りに行く習慣や、他人とコミュニケーションを取る必要性の理解が深まった**。
- 加齢が原因で難聴となった高齢者にもこの取組が役立っている。

### 出前講座利用者の感想

○みやぎの防災・減災ひろば「みんなで考える“聞こえない”ということ」の講座イベント開催前の準備として、出前講座をお願いしました。聴覚障害者の方たちが東日本大震災時に困難を抱えたことを知り、私たちに出来ること、地域で出来ること等、自然災害が多発している昨今、自分事としての気づきを学ぶ事が出来ました。（せんだい女性防災リーダーネットワーク 宮城野代表 大内幸子さん）

### 助成金など支援・協働にかかわる情報

- 令和3年度【聴覚障害者等総合支援業務】  
(宮城県)

### 連絡・問い合わせ先

宮城県聴覚障害者情報センター(愛称:みみサポみやぎ)

TEL : 022-393-5501 FAX : 022-393-5502

Email : info@mimisuppo-miyagi.org

公式HP : <http://www.mimisuppo-miyagi.org>

\*掲載写真は宮城県聴覚障害者情報センターからの提供によるもの